

平成 24 年度 事業 報告 書

法人の名称 特定非営利活動法人 アーモンド コミュニティ ネットワーク

1 事業の成果

11月1日法人設立と同時に、NPO法人の拠点「あ・る・く」(約53㎡)を都筑区北山田駅直結の徒歩1分のエキニワビル1階に開室して、公園の緑に面した静かな明るい環境で心地よい居場所づくりを開始した。さまざまな問題を抱えた地域住民に対して法人の傾聴スタッフによるこころの支援と問題軽減のための支援活動を展開した。NPO法人設立前の任意団体としての活動で始まった不登校支援、子育て支援、多文化多言語支援の活動も、拠点「あ・る・く」を置くことでさらに地域ニーズを踏まえた活動として新たな利用者が事業に参加することになった。法人設立4か月で最初の事業年度末を迎え、今後は安定した事業運営基盤を構築する必要がある。

①子育て支援の推進等に関する事業

ア 子育て支援「子育てあ・る・く」

0歳～未就学児を連れて保護者を対象に「子育てのこころの不安を傾聴で支える」活動を展開した。利用者の傾向として、北山田周辺の近距離に転居してきたばかりのお母さんや、チラシを読んで「話を聴いて貰える場所(利用者の言葉より)」として参加を決めた人や、拠点「あ・る・く」は市営地下鉄北山田駅からエスカレーター、エレベーターで直結のビルにあるので地下鉄を利用して都筑区全域や近隣区からの参加がある。

支援が必要な人にもっと情報が届くように、1月から開始したfacebookやホームページ等のWeb情報発信を活発にしていきたい。また都筑区役所こども家庭支援課や保健福祉課と法人設立前から子育て支援活動へのアドバイスを貰って来た緑区子育て支援拠点「いっぽ」や都筑区子育て支援拠点「ポポラ」との連携をさらに深めていく。また近隣の子育て支援活動団体(南山田にある「つづき」や港北区高田西にある「たかたんのおうち」や近隣の地域ケアプラザ)を訪問して交流を持ち、チラシ等の情報を交換して連携を深めている。

25年度にはさらに地域団体や住民との交流をはかり地域社会と結びついた子育て支援活動を推進していきたい。

イ 「ゴスペル Babys」は、今年度は開催を見送った。

②青少年の健やかな成長の推進等に関する事業

ア 不登校支援「不登校からの道しるべ～MY Café」・ 任意団体の時期から連携している「都筑多文化・青少年交流プラザ」での開催は3年目となり、昨年からは都筑区福祉保健活動拠点「かけはし都筑」での開催も増えて月2回の活動となった。利用者は、子どもの行き渋りや不登校の状態がさまざまに変化する中で参加をする。子どもの状況でMY Caféにも来ることができたり来れなかったり、そんな親を支える意味では継続して開催していく必要がある。当事者の担い手だけでなく、傾聴ができる新たな担い手を来年度は増員する方向で運営する。今年度はシニア世代の傾聴スタッフが新たに担い手に加わった。利用者が参加しやすい呼び名にするために、タイトルを新たに「思春期問題、不登校問題からの道しるべ～MY Café」とした。

法人理事長水谷裕子は、25年度6月に開催される都筑多文化・青少年交流プラザ主催「思春期セミナー」に、思春期不登校問題支援のパネラー兼企画者として加わり準備を進めている。今後は、同じくパネラー兼企画者の、南部ユースプラザを運営する認定NPO法人コロンブスアカデミーと中川地域で夜間保育等を推進する認定NPO法人あっとほーむとの活動連携を強めていきたい。

不登校支援の目的で拠点あ・る・くの白い壁面をアートギャラリーとして開催した『傾聴&アート』展示とワークショップは、都筑区社会福祉協議会から年末たすけあい募金事業助成を受け、後期高齢者の賛助会員と MY Café 担い手スタッフによって実施した。当事者の青少年の作品と障がい者手帳を持つ若者の作品と精神保健傾聴ボランティアである後期高齢者の賛助会員の作品を展示した。この展示を実現するにあたって、引きこもりがちであった当事者の若者たちが地下鉄に乗って拠点あ・る・くに足を運ぶこととなり、またこの企画に興味をもった地域社会の住民とは「不登校問題」や「障がいの問題」について話しあいコミュニティ意識の形成がなった。展示を見ながらの話し合いで、都筑区地域で長く活動してきた障がいのある子どもの親の会「おにマミ」や子どもたちが自由におもちゃで遊びながら障がいの有無をこえたコミュニケーションができる広場を運営する青葉区の「あおばおもちゃのひろば」のメンバーともこれからの連携をはかるきっかけが作れた。

3月16日（土）には、滋賀県大津市のNPO法人マイペースプロジェクトが推進している不登校だった青年によるバンド「Jerry Beans の講演ライブ」の初めての関東講演を都筑区福祉保健活動拠点「かけはし都筑」で（「おにマミ」主催）開催の後援をする。この開催を告知した私たちの法人フェイスブックでの投稿閲覧延べ人数は1か月で1000件を超え不登校問題への関心の高さをさらに実感した。

イ 「子どもから青少年、大人のためのアート・ワークショップ」は、イタリア在住のイラストレーターの法人会員の協力で「絵本の世界から聴く～自分自身の絵本作りアート・ワークショップ」として開催した。参加申し込みが当初の予定よりも多数あり、回数を1回から3回に増やし、曜日もさらに一日追加して2日間で3回のワークショップ開催となった。参加者は10代から80代までの地域住民や外国人留学生で、法人の「傾聴」活動に興味のある人だった。また子どもや家族のこころや身体の問題を抱えている人も多く、「無心に絵本をつくることで心が癒された」「日頃のストレスが軽くなった」という感想も多かった。このアート・ワークショップ活動は今後も継続的に開催する。

今年度は上記のア.とイ.の活動がきっかけとなって、理事長が以前から親の相談を受けてきた不登校や引きこもり状態の青少年が拠点あ・る・くに来るようになった。法人設立時の事業計画書で期待した不登校児のための広場活動が新たに創設できた。これは、25年1月より「わかものあ・る・く」として「問題を抱えた子どもと成人への学習支援」活動に発展した。（詳細は下記⑦にて説明）

来年度に向けて、法人が神奈川県立青少年センターに事業提案をした『青少年サポート～わかものあ・る・く～傾聴セミナー&パネルディスカッション』は、「青少年のひきこもりや不登校等の問題に対し広く県民への啓発や地域住民の理解促進につながり、青少年センターが協働して実施することにより、その成果を高めることができるもの」として認められ、神奈川県立青少年センターとの協働事業「平成25年度ひきこもり地域理解促進事業」として、25年8月3日（土）と9月18日（水）に青少年センターと共催で実施することとなった。

子どもの不登校や引きこもりの相談を親から受けてきた中で、思春期から青年期にかけて社会に出ていくことが難しくなっていく時、当事者が出て行き易い居場所や活動を地域社会に増やすためには、地域社会で居場所活動や支援活動を担っている複数の組織が繋がって連携していることが必要であると常々考えてきた。今回、講師として緑区のNPO法人グリーンママの理事長 松岡美子氏と都筑区のNPO法人五つのパンの理事 岩永敏朗氏を招き、当法人を含めたそれぞれのユニークな活動をどのように青少年支援に生かしていけるかをテーマにパ

ネルディスカッションを実施する。具体的には、当事者も含めて、参加者がそれぞれの抱える問題や活動と一緒に話し合い、互いを傾聴し合うことで、問題を抱えた親子に安心のコミュニティと人間関係を与え、この事業で知り合った法人の活動に足を運ぶことが辛い日常を支える人間関係の構築につながると考える。この事業を通して問題を抱えた当事者がいずれかのNPO法人の活動に繋がり、その人が社会での居場所を見いだすことを願っている。

③多文化共生の推進等に関する事業

ア 「多文化共生コミュニティ～グリーン・ハウス」は利用者の子どもたちが幼稚園、保育園に通うようになり、若いお母さんたちが新たな利用者を紹介する形で参加者が増えつつある。国際結婚や移民等の外国につながる人や帰国子女と呼ばれる人が直面する子育てや生活の問題への理解はまだまだ社会通念が遅れている状況の中で、悩むこころの支援として傾聴ができる担い手スタッフに利用者の若いお母さんが成長していくことは楽しみである。来年度は北山田あ・る・くでの活動を活発に展開していきたい。

イ 「レッツゴスペル」活動は、名称を変更して「多言語で歌おう！多文化で交流しよう！」として、今年度は「英語で遊ぼう！レッツゴスペル」と「中国語で遊ぼう！」を開催した。異なる文化と言語では、どのような遊びや生活習慣があるのかを、日本人と多国籍の地域住民の参加者がお互いの国で良く歌われる童謡と一緒に歌ったり、子育てや生活の話を傾聴しあうことで相互理解を深める活動となった。来年度はさらに多国籍の文化紹介者が増えるように発展させ、地域での多文化多言語多様性共生の理解を促進する活動として展開していきたい。

法人理事長は、3月9日（土）川崎市教育委員会主催「平成24年度中原市民館 家庭・地域教育学級」（企画協力 川崎市外国人市民代表者会議）の講座「多文化家族の子育て～日本での子育て、自分らしい子育て～」を川崎市からの依頼で企画講演した。

④障がい者支援の推進等に関する事業

「体重960gの未熟児で生まれ、成長過程において手足の運動機能に麻痺が残り、以後車椅子生活を送っている。社会人になり「障害」は個性であると感じる。学生時代のイジメや不登校の経験から、コミュニケーションの大切さ、心の声を聴くということについて伝えたい。」（講座チラシより）という法人会員と法人理事長を講師として、多様性、個性、障がいを支え育てるための「傾聴」セミナーを開催した。参加者は障がいのある子どもを持つ親や福祉の現場で働く人、地域住民、障がいのある成人も参加した。「自らが傾聴を学んで本当の自分自身を知った」という講師の生き方は、不登校や引きこもり、発達障がいなど困難な問題を抱える参加者を励ます力があつた。会場には重い問題を抱えた人も多かったが、暖かい空気で満たされ、慰めと生きる力と勇気に満ちていた。今後もこのテーマの「傾聴」セミナーを継続していく。

さらに障がいのある人への当事者による相談事業は制度としてはあっても、相談に訪れる障がい者自身が少ないという実情がある。障がいのある子どもや大人とその家族を傾聴によっていかに支えていけるかというテーマを当事者である会員と共にさらに取り組んでいきたい。

⑤高齢者支援の推進等に関する事業

「高齢者と異世代の交流～傾聴カフェ活動」

この事業は、来年度からの開催に向けて担い手スタッフを集め、現在準備中である。

⑥コミュニティ活動の推進等に関する事業

「横浜に聴くツアー」は、法人理事の米国人歴史学者他が担い手となって、今年度は秋から冬にかけて歴史講義、コラージュ制作のワークショップとツアーを行なった。参加者は20代～60代の男女で、国籍も多様であった。自分たちの住む横浜と港北ニュータウンの歴史を訪ねて自らの足で歩くツアーでコミュニティ意識が高まった。土地を歩くことでユニークに歴史を知り、参加者同士が傾聴しあうことで世代や国籍を超えた仲間意識、住民意識が育まれた。来年度も継続して秋以降に開催する。

⑦上記の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談に関する事業

ア 「問題を抱えた子どもと成人への学習支援」活動は、法人としてのミッションと長年相談を受けて来た保護者の方たちからの要望を受けて1月より「わかものあ・る・く」として立ち上げることができた。「思春期～青少年の居場所づくり事業」とさらに「傾聴によるこころの支援活動」と「学びなおしの学習支援活動」として展開している。

参加者は不登校経験や引きこもり経験のある青少年で、何年ぶりに一人で電車に乗って家から通ってきているという青少年もいる。法人の傾聴スタッフが担い手となっている拠点あ・る・くが、最初は居心地のよい居場所となって自分のことを話す場所となり、さらに各自が自分から「学びなおしたい」という意欲を持ってきて青少年が希望する学科をスタッフと学ぶ学習支援活動へと発展してきている。そこまで意識が動くまでには、これまでの負の体験を自分から語り、問題を自分なりに整理していくプロセスが重要であり、傾聴スタッフはそれを支える役割を担っている。やはり「どうやって友だちや先生と付き合ったら良いかが分からない」という青少年が多く、来年度はさらに軽度発達障がいを持つ子どもや大人への支援として、ソーシャルスキルトレーニングのプログラムを取り入れて「学びなおしの支援」をさらに深めていきたい。

イ 「傾聴セミナー」事業は、今年度は準備期間とした。

ウ 「傾聴マグカップ」事業は、今年度は準備期間とした。

エ 「傾聴の気づきノート」の制作は、今年度は準備期間とした。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 子育て支援の推進等に関する事業

ア 「子育てあ・る・く」事業

- ・内 容 子育て中の母親の悩みや不安を「傾聴」し、寄り添う姿勢で子育てを支える。発達の問題や家族問題等を抱えた人を支えて相談機関等へ繋ぐ。
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 0歳～3歳児の子育て中の母親と子ども 30人
- ・支出見込額 544,805円

イ 「ゴスペル Babys」事業

講師の事情で開催を見送る。

② 青少年の健やかな成長の推進等に関する事業

ア 「不登校からの道しるべ～MY Café」名称を改め、「思春期問題、不登校問題からの道しるべ～MY Café」事業

- ・内 容 不登校、登校しぶり、登園しぶりの子を持つ家族対象の広場活動と、当事者の青少年のアート活動支援
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 不登校、登校しぶり、登園しぶり、思春期の子を持つ家族 82人
- ・支出見込額 42,595円

イ 「子どもから青少年、大人のためのアート・ワークショップ」事業

- ・内 容 不登校状態にある青少年と協力して開催した。
地域住民を対象とした「絵本の世界に聴く～自分の絵本をつくる」アート・ワークショップ。講師はイタリア在住のイラストレーター、絵本作家の法人会員で不登校児支援活動に参加している。
- ・日 時 1月～2月
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 地域の親子と成人住民、不登校状態にある子どもと親、31人
- ・支出見込額 48,860円

③ 多文化共生の推進等に関する事業

ア 「多文化共生コミュニティ～グリーン・ハウス」事業

- ・内 容 国際結婚や移民等で外国につながる人、家族と多文化多言語背景にある人のための広場事業
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 支援が必要な外国につながる人と子ども、その他 35人
- ・支出見込額 0円

イ 「レッツゴスペル」名称を改め、「多言語で歌おう！多文化で交流しよう！」事業

- ・内 容 地域での多文化多言語共生の理解を促進する活動として展開。
今年度は「英語で歌おう！レッツゴスペル」（米国人会員指導）と「中国語で遊ぼう！」（中国人地域住民の指導）を開催した。
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市都筑区内北山田
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 多文化共生社会と音楽に興味のある市民 16人
- ・支出見込額 50,500円

④ 障がい者支援の推進等に関する事業

- ・内 容 障がいのある人とその家族への傾聴によるこころの支援として「傾聴」を学んでいる障がいのある会員が講師のセミナーを開催する。
- ・日 時 1月

- ・場 所 横浜市内
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 障がい者、障がい者の家族、市民 25人
- ・支出見込額 0円

⑤ 高齢者支援の推進等に関する事業

- ・内 容 「高齢者と異世代の交流～傾聴カフェ活動」
法人の拠点あ・る・くでの、高齢者の持つ技能や力を引き出し、異世代との交流をはかる目的の傾聴コミュニティカフェ活動
- ・日 時 今年度は準備期間とした。
- ・場 所 NPO 法人の拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 市民と高齢者
- ・支出見込額 0円

⑥ コミュニティ活動の推進等に関する事業

- ・内 容 「横浜に聴くツアー」日本歴史学者である法人の米国人理事の案内で歴史に傾聴して自らの体験から学ぶ。毎月1回開催の全5回コース。参加者同士が相互に傾聴しあい理解を深めあうことで、自分たちの住むコミュニティへの意識が変わる。講義とツアーで構成。
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜各所
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 地域住民、市民 延べ50人
- ・支出見込額 630円

⑦ 上記の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談に関する事業

ア 「問題を抱えた子どもと成人への学習支援」事業 「わかものあ・る・く」

- ・内 容 なんらかの問題を抱えた子どもと大人への学習支援を実施する。「わかものあ・る・く」として、こころを支える傾聴の姿勢で一人一人の個別の問題と向き合って支援している。
- ・日 時 1月～3月
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 学習に問題を抱えた子ども、青少年、成人 延べ24人
- ・支出見込額 126,250円

イ 「傾聴セミナー」事業

- ・内 容 「傾聴」による支援活動の効果と意義を伝える目的のセミナー
- ・日 時 本年度は準備期間とした。
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 「傾聴」による支援に興味のある地域住民、市民
- ・支出見込額 0円

ウ 「傾聴マグカップ」事業

- ・内 容 「傾聴」のロゴを入れたマグカップの制作と販売。傾聴活動を豊かにするための啓発ツールとして開発する。会員やカフェの参加者が気軽に使用できるものを創る。
- ・日 時 本年度は準備期間とした。
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）、セミナー会場、他
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 「傾聴」カフェ利用者、セミナー受講生、他
- ・支出見込額 0円

エ 「傾聴の気づきノート」事業

- ・内 容 会員や傾聴学習者が「傾聴」活動の際や学習の過程で気付いたことを記入できるノートの制作と販売。傾聴活動を豊かにする啓発ツールとして開発。
- ・日 時 本年度は準備期間とした。
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）、セミナー会場、他
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 「傾聴」学習者、他
- ・支出見込額 0円

以上